

岡村昭彦の知の世界

～写し出された世界/シャッターに込められる思想～



「戦場で朝食をとる南ベトナム政府軍の将校たち」
南ベトナム 1964年頃



右写真 岡村昭彦 南ベトナム 1960年代



「ボグサイドの戦い」のさなかティー
とビスケットが提供される
北アイルランド、デリー 1969年8月

岡村昭彦（ジャーナリスト）

1929年1月1日生まれ。47年に東京医学専門学校（現東京医科大学）中退。34歳のときにはじめて南ベトナム戦争を取材、翌年アメリカの雑誌『LIFE』に南ベトナム前線での写真が9ページに渡り特集されて一躍世界のOKAMURAとなる。65年『南ベトナム戦争従軍記』（岩波新書）は、ベストセラーとなり、日本人の目を東南アジアの戦争に向けさせた。その後、北アイルランド紛争、ピアラフ戦争、エチオピアの飢餓などを取材。「我々はどんな時代に生きているのか」という視点から21世紀にも未解決の戦争と平和の問題を鋭く訴えかけた。

晩年は静岡県舞阪町（現浜松市西区舞阪町）を拠点にホスピスやバイオエシックス（生命倫理学）、浜名湖環境訴訟などに取り組んだ。岡村が監訳した『ホスピス－末期ガン患者への宣告』（家の光協会）は、1980年代初めの日本のホスピス運動黎明期において大変貴重な文献であり、またバイオエシックスに関してはその普及に先駆的な役割を果たした。故郷の舞阪町では、浜名湖や遠州灘を守るために、し尿処理場と終末処理場の建設に反対し、漁民らとともに闘った。しかし1985年3月24日敗血症のため死去。享年56歳。（「岡村昭彦の全体像に迫る」静岡県立大学岡村昭彦文書研究会より）

展示会 全ての会場は無料でご覧いただけます。

静岡県立美術館 県民ギャラリー

岡村昭彦写真展

「岡村昭彦の写真にみる生と死、
いのちをつなぐ食べもの」
10月27日（火）～11月8日（日）

静岡県立中央図書館 展示室

岡村昭彦の知の系譜とネットワーク
10月20日（火）～11月15日（日）

静岡県立大学附属図書館 岡村文庫

岡村昭彦が世界に印した足跡
10月26日（月）～11月25日（水）

講演会

1 日時：2020年10月24日（土曜日）15時00分～

演題「岡村昭彦の写真にみる生と死、いのちをつなぐ食べもの
ーベトナムからアイルランドへー」

講師：戸田昌子（写真史家）

Zoomによるオンライン講演会 定員：70名（先着順）

申込期限：2020年10月17日（土曜日）

申込アドレス：https://req.qubo.jp/u_shizuoka/form/Library20201024

2 日時：2020年11月8日（日曜日）14時30分～

演題「岡村昭彦の知の系譜～昭彦に連なる幕末・維新・明治のネットワーク～」

講師：小幡壮（静岡県立大学国際関係学部教授・同大学附属図書館長）

会場：静岡県立中央図書館会議室 定員：50名

当日先着順・申込不要／無料



オンライン講演会申込フォーム

主催：ムセイオン静岡
静岡県立大学
静岡県立中央図書館
静岡県立美術館

【問い合わせ】

静岡県立大学附属図書館

E-mail: tosho-s@u-shizuoka-ken.ac.jp



ムセイオン静岡

状況により中止や延期になる場合がございます。詳しくは主催機関のHPをご覧ください。